

太秦・嵯峨野地域の遺跡 5 —大寺の時代 集落の形成—

(財)京都市埋蔵文化財研究所 加納敬二

はじめに

- ・太秦・嵯峨野地域の位置・範囲について。
- ・当地域の地形環境について。

1 太秦・嵯峨野地域の調査

嵯峨野地域では 1971 年に京都大学考古学研究会により、全域で分布調査が行われ、古墳を中心に遺跡の位置、内容などが『嵯峨野の古墳時代』として、まとめられた。

太秦地域では 1976 年から当研究所により本格的な調査（常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群）が開始され、現在までに 32 回の調査が実施されている。1976 年 11 月の当研究所発足から 1996 年 3 月までの太秦・嵯峨野における広域立会調査により、新たに発見した弥生時代から飛鳥時代の集落遺跡や寺院跡などを、1997 年に『京都嵯峨野の遺跡』として報告した。

近年、広隆寺旧境内の調査については、不明であった寺域の範囲や集落遺跡との関係が明らかになりつつある。

2 広隆寺旧境内の調査

5・9・21～24・28・29・32 次調査での飛鳥時代の竪穴住居や溝などの遺構を検出。27～29・32 次調査では城北街道沿いに街道西側溝を検出しており、広隆寺旧内東限の可能性が示された。

3 集落の調査

常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内では、1976 年の 5 次調査で古墳時代後期の竪穴住居 24 棟、掘建柱建物 4 棟が検出されて以来、年々の調査で遺構数は増加している。最近では城北街道拡幅に伴う 25～29・32 次調査で竪穴住居が検出され、竪穴住居の数は 70 棟近くに達している。

1987 年の和泉式部町遺跡の 16 次調査では弥生時代中期と古墳時代前期の竪穴住居が発見され、当地域では最も古い集落として注目される。

2010 年、31 次調査の村ノ内町遺跡では古墳時代後期から飛鳥時代の竪穴住居を 12 棟検出し、竪穴住居検出地点では最北端の事例となった。

4 まとめ

当地域の集落遺跡は御室川西岸の低地・台地、有栖川東岸の低地、桂川東岸の自然堤防上に大きく分かれ、水田耕作地や古墳造営と寺院建立などの関連で集落の立地がみられる。

広隆寺旧境内では検出した飛鳥時代の竪穴住居の特徴やあり方に共通性がみられ、嵯峨街道（現下立売通り）を境に常盤東ノ町古墳群の周辺集落と広隆寺旧境内の竪穴住居群に分かれる。街道南側の旧境内の集落は寺院造営に直接かかわった秦氏直属の工人集団の一部と考えられる。

今後、太秦地域で検出した個々の竪穴住居の比較検討により、上述したことがさらに明らかになるだろう。

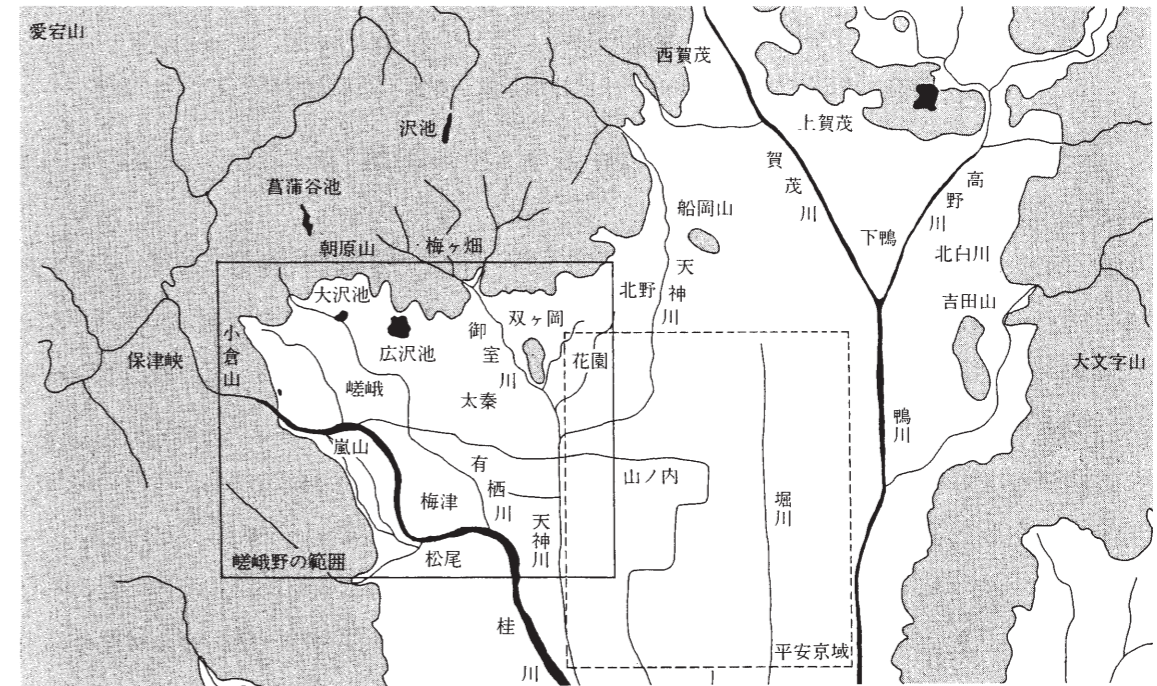


図 1 嵯峨野の位置と範囲 (1 : 120,000)

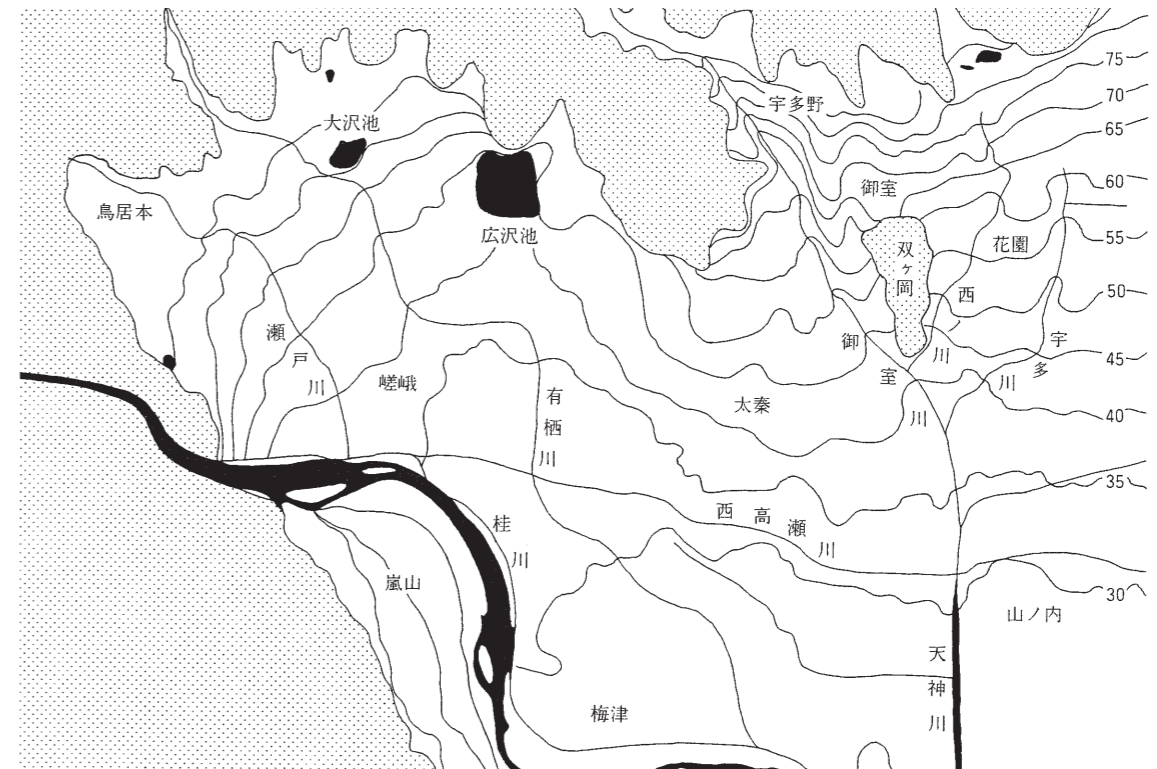
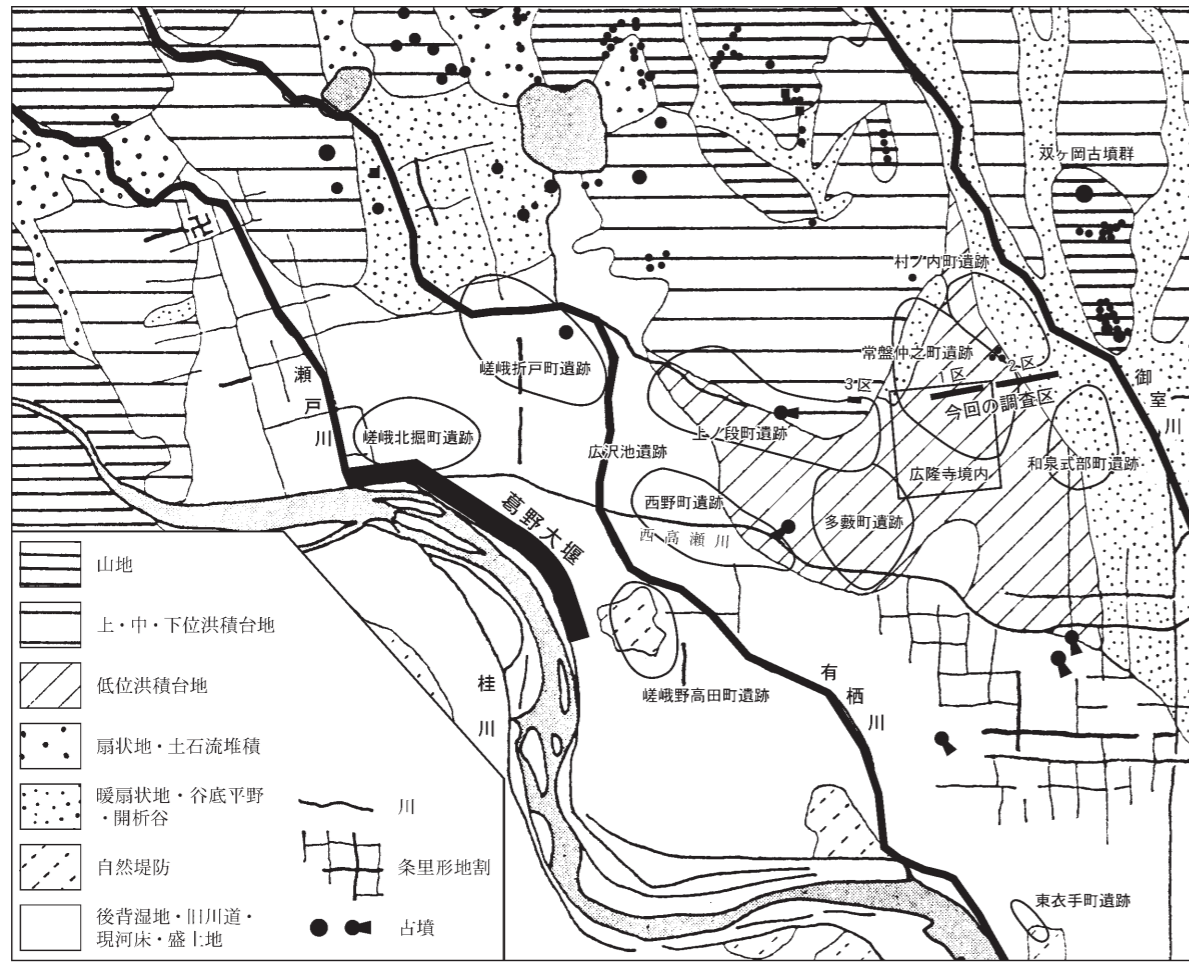


図 2 嵯峨野の等高線図 (1 : 40,000)



※ 金田章祐『条里と村落の歴史地理学研究』大明堂 1985年 図2-9「葛野郡北西部の微地形と条里型地割の分布」を加工・加筆

図3 葛野郡北西部の地形と飛鳥時代以前の遺跡分布

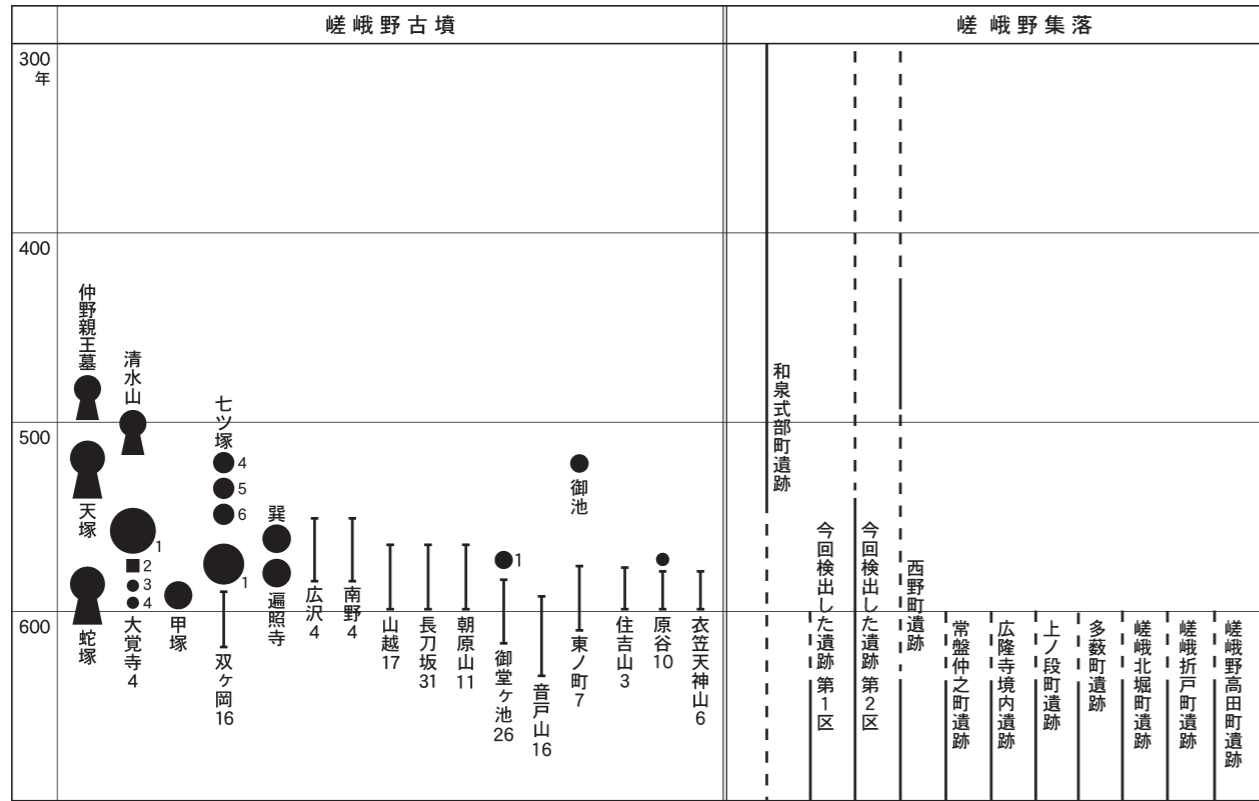


図4 嵯峨野の古墳群と集落

『ヤマト王権と渡来人-日本考古学協会 2003年滋賀大会シンポジウム2』2005年に収録の丸川義広編年案に加工・加筆

表1 嵯峨野地域の弥生時代から飛鳥時代の集落跡一覧表

遺跡名	弥生時代から飛鳥時代の調査概要	文献
村ノ内町遺跡	御室川西岸の低地に立地する弥生時代中期の集落跡である。1980年の立会調査で弥生時代の遺物包含層を確認し、1986年の試掘・立会調査では弥生時代中期の土壘・溝・遺物包含層を検出し、遺跡範囲の確定が可能となった。また1988年の広域立会調査では弥生時代の遺物包含層と古墳時代後期の溝を確認している。	「調査一覧表 太秦地区」『京都市内遺跡試掘・立会調査概報』昭和55年度京都市文化観光局 1981年 「調査一覧表 太秦地区」『京都市内遺跡試掘・立会調査概報』昭和61年度京都市文化観光局 1987年 「2 太秦地域の遺構分布」『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 京都市埋蔵文化財研究所 1997年
常盤仲之町遺跡	御室川西岸の台地に立地する7世紀代の集落跡である。1978年の発掘調査では堅穴住居跡24棟、掘立柱建物4棟が検出されている。	『常盤仲之町集落跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告Ⅲ 1978年
和泉式部町遺跡	御室川西岸の低地に立地する弥生時代中期から古墳時代中期の集落跡である。1985年の広域立会調査により発見された。1987年の発掘調査では弥生時代中期から古墳時代中期までの堅穴住居跡を検出した。堅穴住居は弥生時代中期1棟、古墳時代前期12棟、古墳時代中期9棟を検出している。また韓式土器および初期須恵器も出土している。	「16 広隆寺旧境内・一ノ井町遺跡・和泉式部町遺跡」『昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1988年 「43 和泉式部町遺跡」『昭和62年度京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1991年
広隆寺境内遺跡	御室川西岸の台地に立地する飛鳥時代の集落跡である。常盤仲之町遺跡とは北半部が重複する。1980年広隆寺新霊宝館建設に伴う調査や、1996年の太秦映画村内の関西文化財調査会による調査で飛鳥時代の堅穴住居8棟を検出している。	「7 広隆寺旧境内2」『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 京都市埋蔵文化財研究所 1997年 「関西文化財調査会による実報報告」1996年
上ノ段町遺跡	有栖川東岸に立地する飛鳥時代の集落跡である。1980年の蜂ヶ岡中学校校舎増築に伴う発掘調査で飛鳥時代の堅穴住居7棟、掘立柱建物1棟を検出した。1988年の同中学校の体育館改築に伴う発掘調査では、飛鳥時代の堅穴住居3棟、掘立柱建物4棟、土壘3、溝4を検出している。	「13 上ノ段町遺跡」『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 京都市埋蔵文化財研究所 1997年 「41 上ノ段町遺跡」『昭和63年度京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1993年
多藪町遺跡	有栖川東岸の台地に立地する。北半部は広隆寺境内遺跡と上ノ段町遺跡が接している。1991年の広域立会調査で古墳時代後期（7世紀代とみられる）の溝・土壘を検出し、さらに当該期の遺物包含層が多藪町を中心とする広範囲で確認されている。	「11 広隆寺旧境内・上ノ段町遺跡他」『昭和62年度京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1991年 「2 太秦地域の遺構分布」『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 京都市埋蔵文化財研究所 1997年
西野町遺跡	有栖川東岸の低地に立地する古墳時代の集落跡である。1982年の嵯峨野小学校内の発掘調査で発見された。校内では7世紀代の堅穴住居跡5棟の他、溝と土壘を検出している。1988年の発掘調査では古墳時代前期の土壘、古墳時代後期（7世紀代とみられる）の堅穴住居跡3棟を検出した。また同年の広域立会調査では古墳時代前期・後期の遺物包含層を太秦西野町から嵯峨野千代ノ道町の広域で確認している。	「55 嵯峨野小学校校内遺跡」『昭和56年度京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1982年 「43 西野町遺跡」『昭和63年度京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所 1993年 「2 太秦地域の遺構分布」『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 京都市埋蔵文化財研究所 1997年
嵯峨折戸町遺跡	有栖川西岸の低地に立地する。1990年の広域立会調査で飛鳥時代の土壘と遺物包含層を検出。包含層は嵯峨折戸町を中心に広がる。1992年、嵯峨天竜寺道町で関西文化財調査会が発掘調査し、飛鳥時代の堅穴住居跡1棟を検出している。	「3 嵯峨・嵐山地域の遺構分布」『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 京都市埋蔵文化財研究所 1997年
嵯峨北掘町遺跡	瀬戸川の東岸の低地に立地する。1987年の広域立会調査で飛鳥時代の土壘や柱穴、遺物包含層を検出している。	「2 太秦地域の遺構分布」『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 京都市埋蔵文化財研究所 1997年
嵯峨野高田町遺跡	桂川東岸の自然堤防上に立地する。1987年の広域立会調査で嵯峨野高田町の三ノ宮神社境内と南の耕作地で古墳時代後期（7世紀代とみられる）の須恵器・土師器を表面採取している。	「2 太秦地域の遺構分布」『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊 京都市埋蔵文化財研究所 1997年
東衣手町遺跡	桂川東岸の自然堤防上に立地する。1985年の家屋新築工事に伴う調査で飛鳥時代の合わせ口甕棺墓が出土。	「Ⅲ 東衣手町遺跡 (U720)」『昭和60年度京都市内遺跡試掘立会調査概報』京都市文化観光局 1986年

表2 周辺調査一覧表

No.	調査年度	方法	調査日	調査概要	文献
1	1974	発掘	1974.11.01～1975.01.15	室町頃の土師器皿の出土する窠	「平安建設株式会社所有の双が岡西麓地に於ける埋蔵文化財発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報集』鳥羽離宮跡調査研究所 1976年
2	1976	発掘	1976.10.26～1976.12.06	古墳後期の円墳3、室町～江戸の土壇墓群、土師器・須恵器	『常盤東ノ町古墳群』京都市埋蔵文化財研究所調査報告-I (財)京都市埋蔵文化財研究所 1977年
3	1976	発掘	1976.11.03～1976.11.15	古墳後期の円墳1、室町～江戸の土壇墓群、土師器・須恵器	『常盤東ノ町古墳群』『京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-I』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1978年
4	1976	発掘	1976.11.24～1976.12.07	平安の柱穴群・土坑2、弥生～古墳の包含層、弥生土器・須恵器	『仁和寺子院跡』『京都市埋蔵文化財研究所概報集1979-I』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1978年
5	1976	発掘	1977.02.01～1977.06.10	古墳後期の竪穴住居24・建物4・溝、平安の建物4他	『常盤仲之町集落跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告III (財)京都市埋蔵文化財研究所 1978年
6	1977	発掘	1977.05.03～1977.06.12	飛鳥の基壇、奈良～平安の建物、瓦	『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年
7	1977	発掘	1977.11.11～1978.02.11	弁天島経塚の調査。平安後期の経塚群、土師器・須恵器・白磁・軒瓦・金属製品・石製品他	『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年
8	1977	発掘	1978.01.30～1978.02.18	室町の柱穴・土坑	『日本電信電話公社嵯峨野住宅集会所新築に伴う発掘調査』『常盤仲之町集落跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告III (財)京都市埋蔵文化財研究所 1978年
9	1979	発掘	1980.02.01～1980.03.31	古墳後期の竪穴住居、平安・鎌倉・室町の土坑、土師器・須恵器・輸入陶磁器・陶器・磁器・植輪	『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年
10	1979	発掘	1980.02.27～1980.03.15	古墳周溝、鎌倉の土坑2、土師器・須恵器・瓦器・陶器	『京都嵯峨野の遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年
11	1980	立会	1980.05.22	弥生の包含層、弥生土器	『調査概要一覧表』『京都市内遺跡試掘・立会調査報告』昭和55年度 京都市文化観光局 1981年
12	1980	発掘	1980.10.20～1980.11.24	古墳後期の竪穴住居、平安中期の建物・柵・柱穴	『広隆寺跡-右京検察庁庁舎改築に伴う発掘調査の概要-』昭和55年度 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1981年
13	1981	発掘	1981.07.13～1982.03.12	飛鳥の土坑、平安時代の梵鐘造遺構	『広隆寺跡』『京都府遺跡調査概報』第5冊-2 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1982年
14	1982	試掘	1982.08.09～1982.08.10	古墳後期～室町の土坑・包含層、土師器・白磁	『調査概要一覧表』『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和57年度 京都市文化観光局 1983年
15	1986	試掘立会	1986.11.21～1987.04.03	弥生中期の土坑・流路・包含層、土師器・陶器・瓦	『調査一覧表 太秦地区』『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度 京都市文化観光局 1987年
16	1987	発掘	1987.05.06～1987.07.31	弥生中期の竪穴住居、古墳前期の竪穴住居・土師器、古墳中期の須恵器	『和泉式部町遺跡』『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年
17	1990	発掘	1991.03.19～1991.04.20	飛鳥の溝・柱穴・土坑、平安～室町の包含層	『広隆寺旧境内1』『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
18	1991	立会	1991.12.03～1991.12.05	平安前期の長方形土坑、須恵器	『調査一覧表 太秦地区』『京都市内遺跡試掘調査概報』平成3年度 京都市文化観光局 1992年
19	1991	発掘	1992.01.12～1992.02.22	平安前期～中期の溝・土坑・柱穴、江戸の溝	『広隆寺旧境内2』『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
20	1992	試掘	1993.03.25	古墳の溝1、平安・鎌倉の土坑2、土師器・須恵器・銭	『常盤東ノ町古墳群』『京都市内遺跡試掘調査概報』平成5年度 京都市文化観光局 1994年
21	1993	発掘	1993.04.17～1993.05.31	飛鳥の竪穴住居・土坑、平安中期の溝・柱穴	『広隆寺旧境内』『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
22	1995	発掘	1996.01.11～1996.04.13	飛鳥の竪穴住居4、平安～江戸の遺構など	関西文化財調査会による発掘調査実績報告
23	2006	発掘	2006.01.20～2006.07.20	弥生の竪穴住居、古墳～飛鳥の竪穴住居、鎌倉の土壇墓・溝・柱列	『常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-6 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2006年
24	2008	発掘	2008.04.11～2008.06.27	弥生の竪穴住居、古墳後期～飛鳥の竪穴住居・溝ほか	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-3 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2008年
25	2008	発掘	2008.11.25～2009.01.14	古墳後期～飛鳥の竪穴住居ほか	『常盤東ノ町古墳群』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-17 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2009年
26	2008	発掘	2008.11.10～2009.03.17	古墳後期～飛鳥の竪穴住居、古墳後期の横穴式石室ほか	『常盤東ノ町古墳群・村ノ内町遺跡・常盤仲之町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-20 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2009年
27	2008	発掘	2009.01.20～2009.03.19	奈良の掘立柱建物、鎌倉～室町の土坑・溝・落込みほか	『常盤仲之町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-21 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2009年
28	2009	発掘	2009.12.14～2010.03.12	飛鳥の竪穴住居、平安の区画施設・溝・土坑、鎌倉～室町の土坑など	『常盤仲之町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-16 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2010年
29	2009	発掘	2009.12.14～2010.02.02	飛鳥の竪穴住居、鎌倉～室町の土坑など	『常盤仲之町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-18 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2010年
30	2010	発掘	2010.05.06～2010.06.22	平安中期～後期の土坑・溝・柱列、中世の土坑・溝など	『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-4 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2010年
31	2010	発掘	2010.05.06～2010.06.10	縄文中期の土坑、古墳後期～飛鳥の竪穴住居・土坑、中世の建物・柱列・土坑など	『村ノ内町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-3 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2010年

※ Noは図5の調査地点の数字と対応



図5 調査地と周辺の遺跡 (1:5,000)

広隆寺旧境内の調査 1

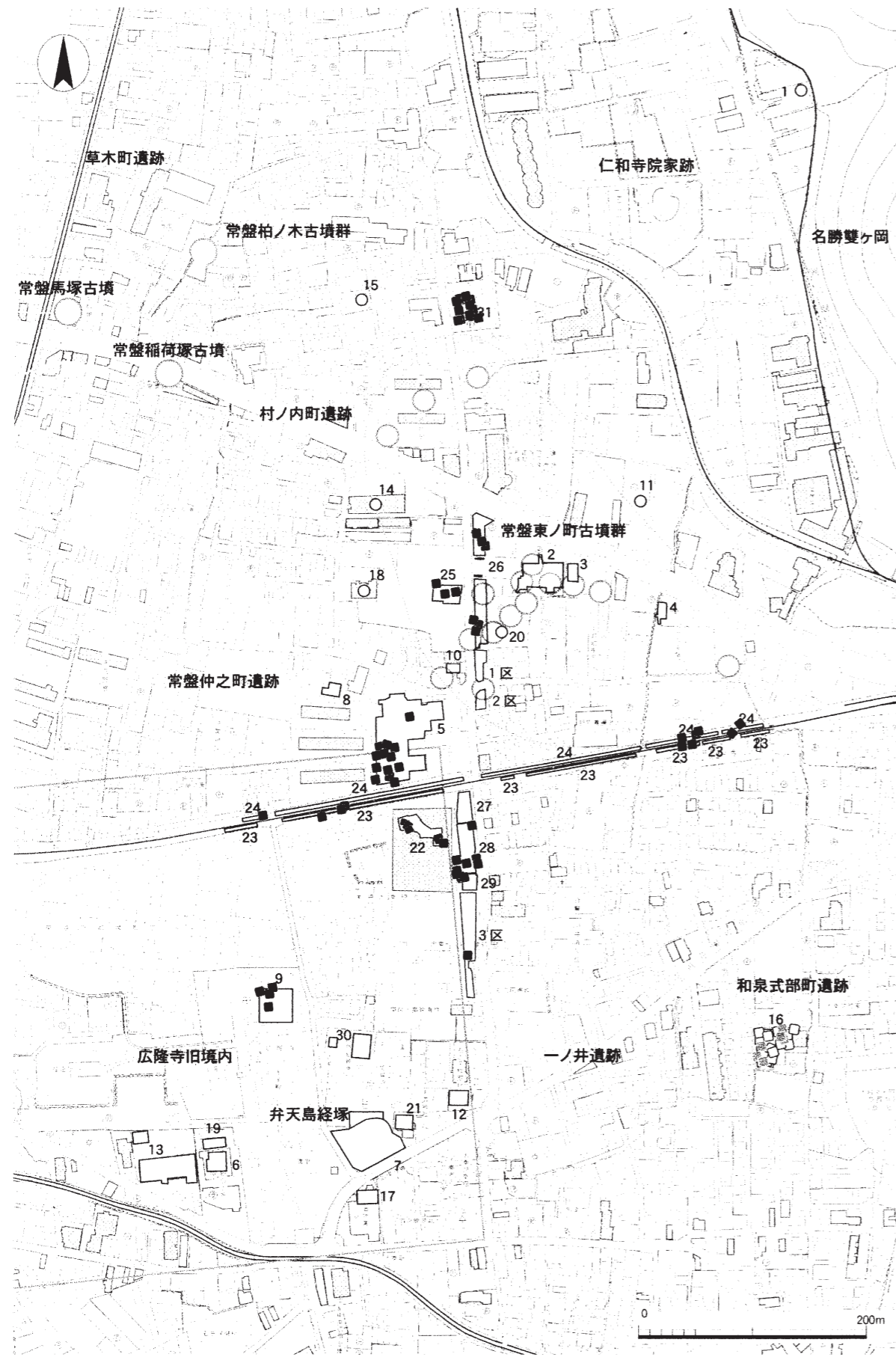


図6 広隆寺周辺竪穴住居検出地点 (1 : 5,000)

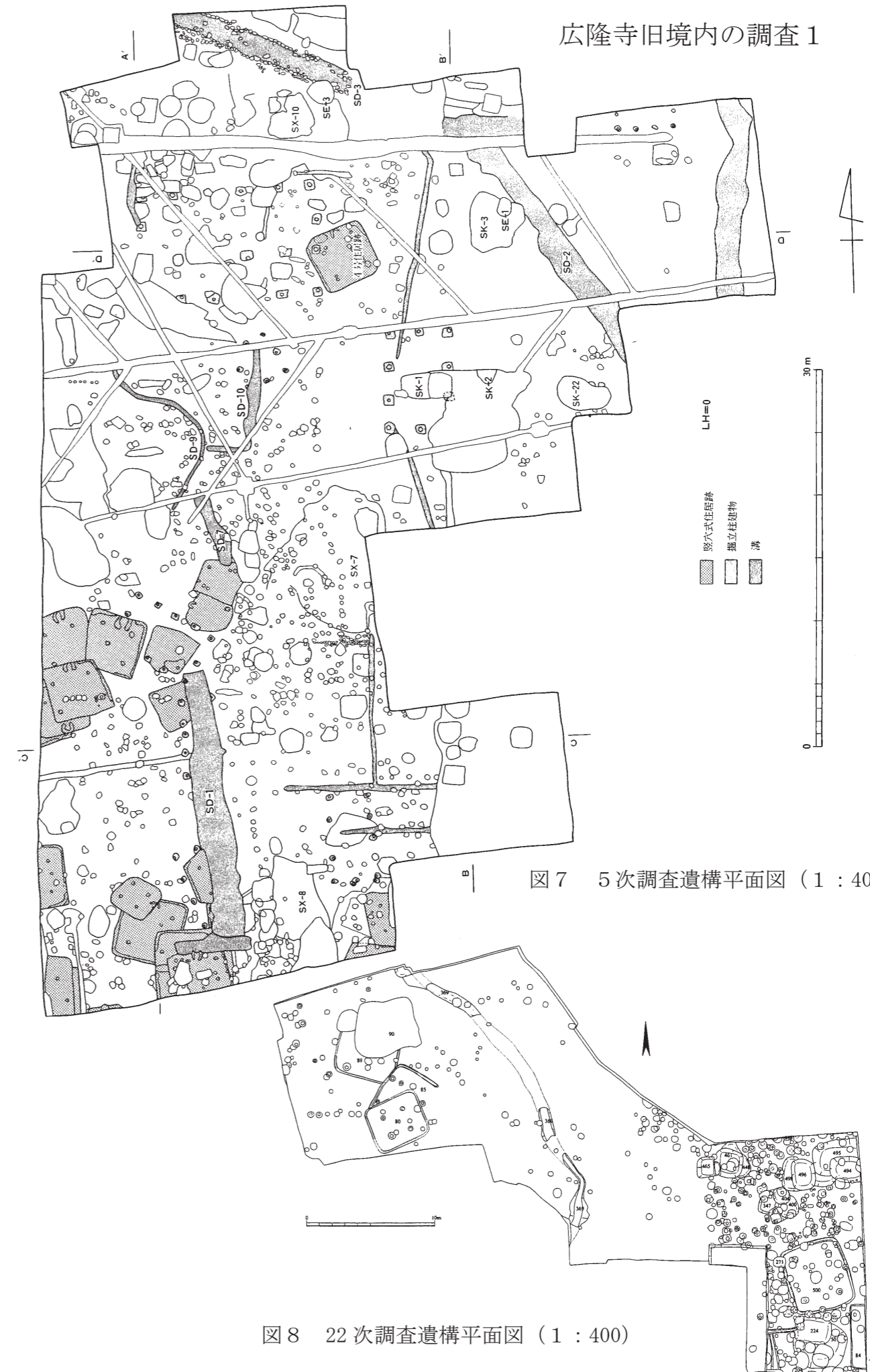


図7 5次調査遺構平面図 (1 : 400)

図8 22次調査遺構平面図 (1 : 400)

広隆寺旧境内の調査 2



図9 9次調査位置図 (1:5,000)

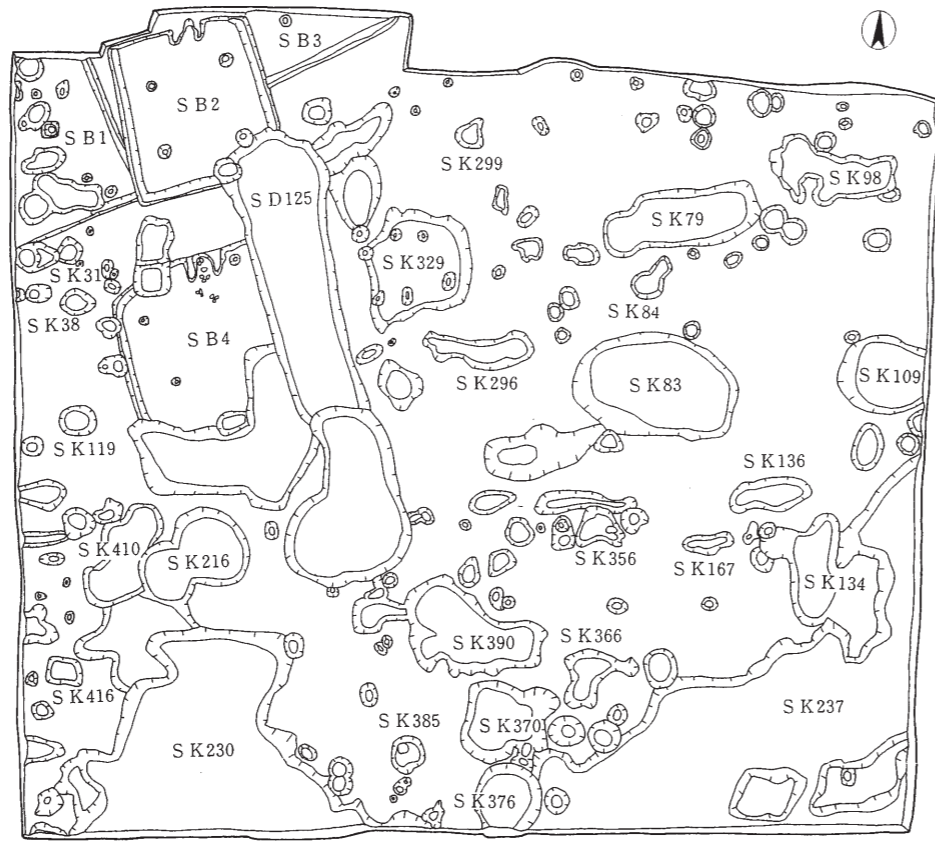


図10 9次調査遺構平面図 (1:500)



図11 12次調査位置図 (1:5,000)

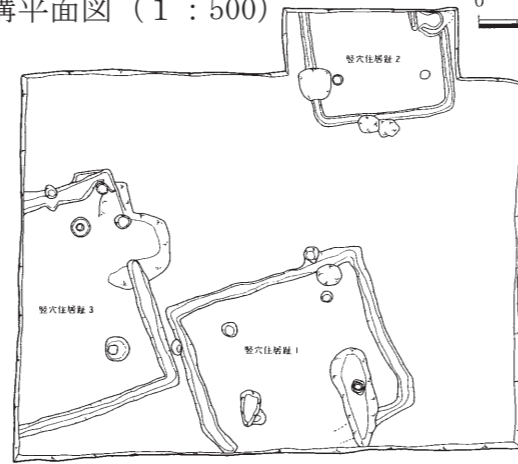


図12 12次調査遺構平面図 (1:200)



図13 21次調査位置図 (1:5,000)

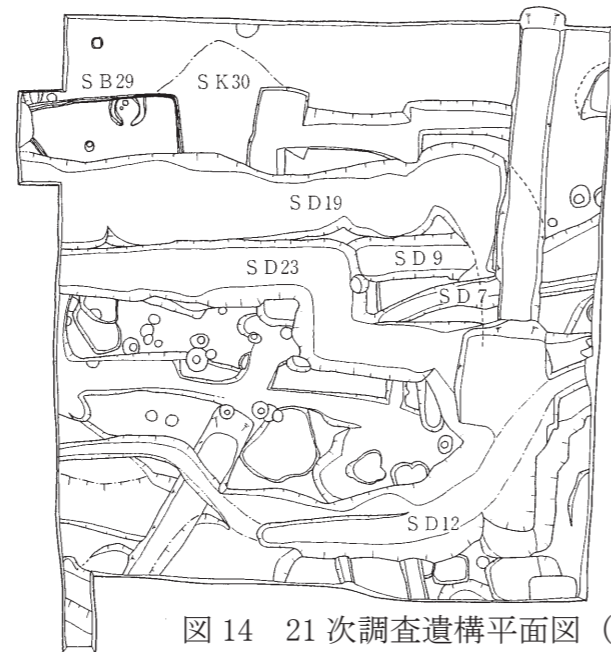


図14 21次調査遺構平面図 (1:200)

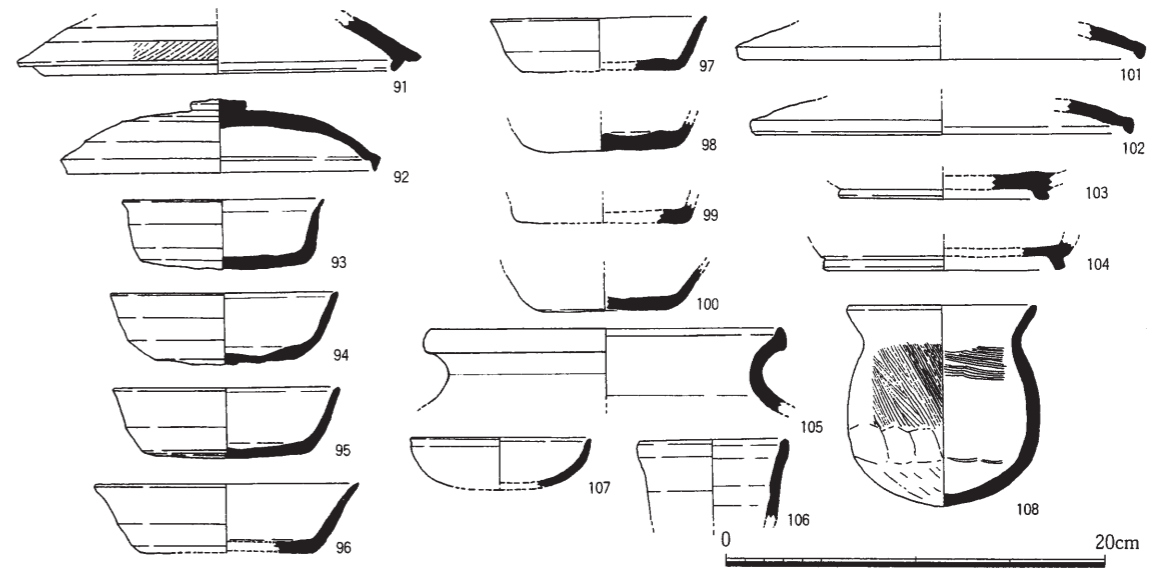


図15 9次調査出土土器 (1:4)

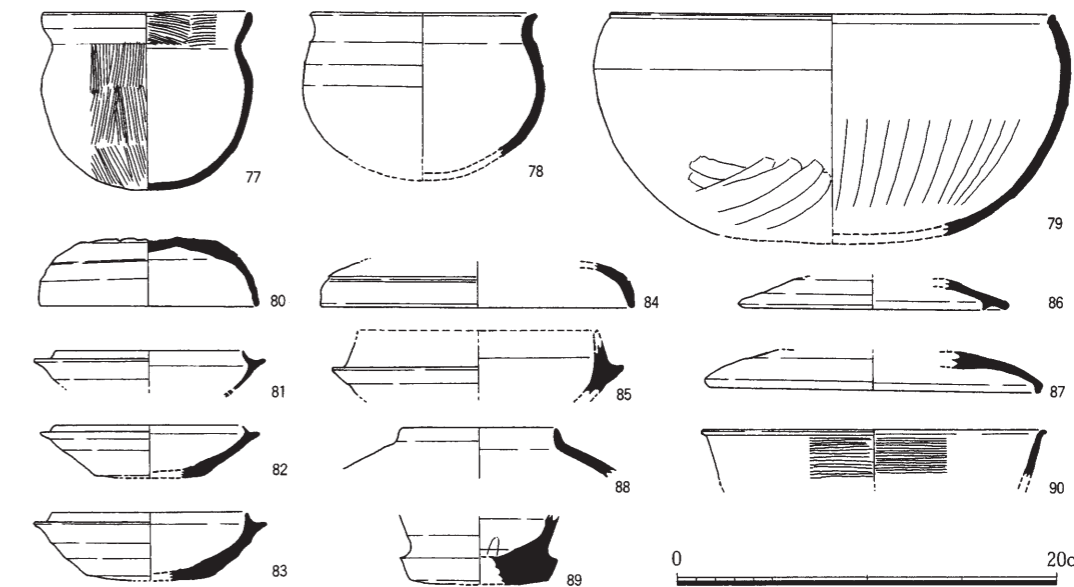
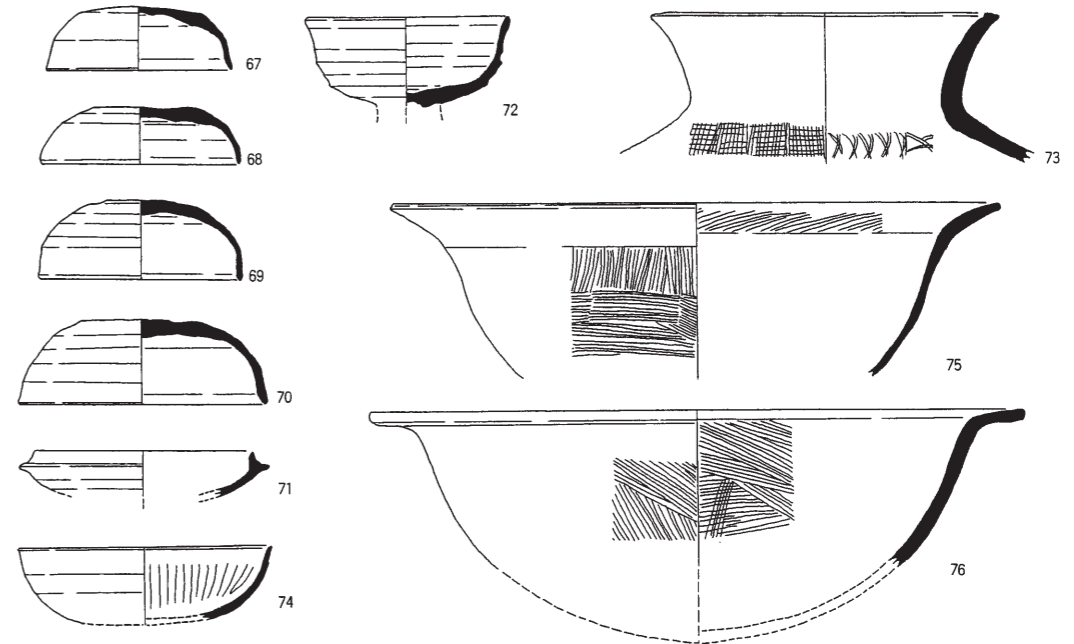


図16 21次調査出土土器 (1:4)

広隆寺旧境内の調査 3 旧山陰線高架工事に伴う発掘調査 (23・24次調査)

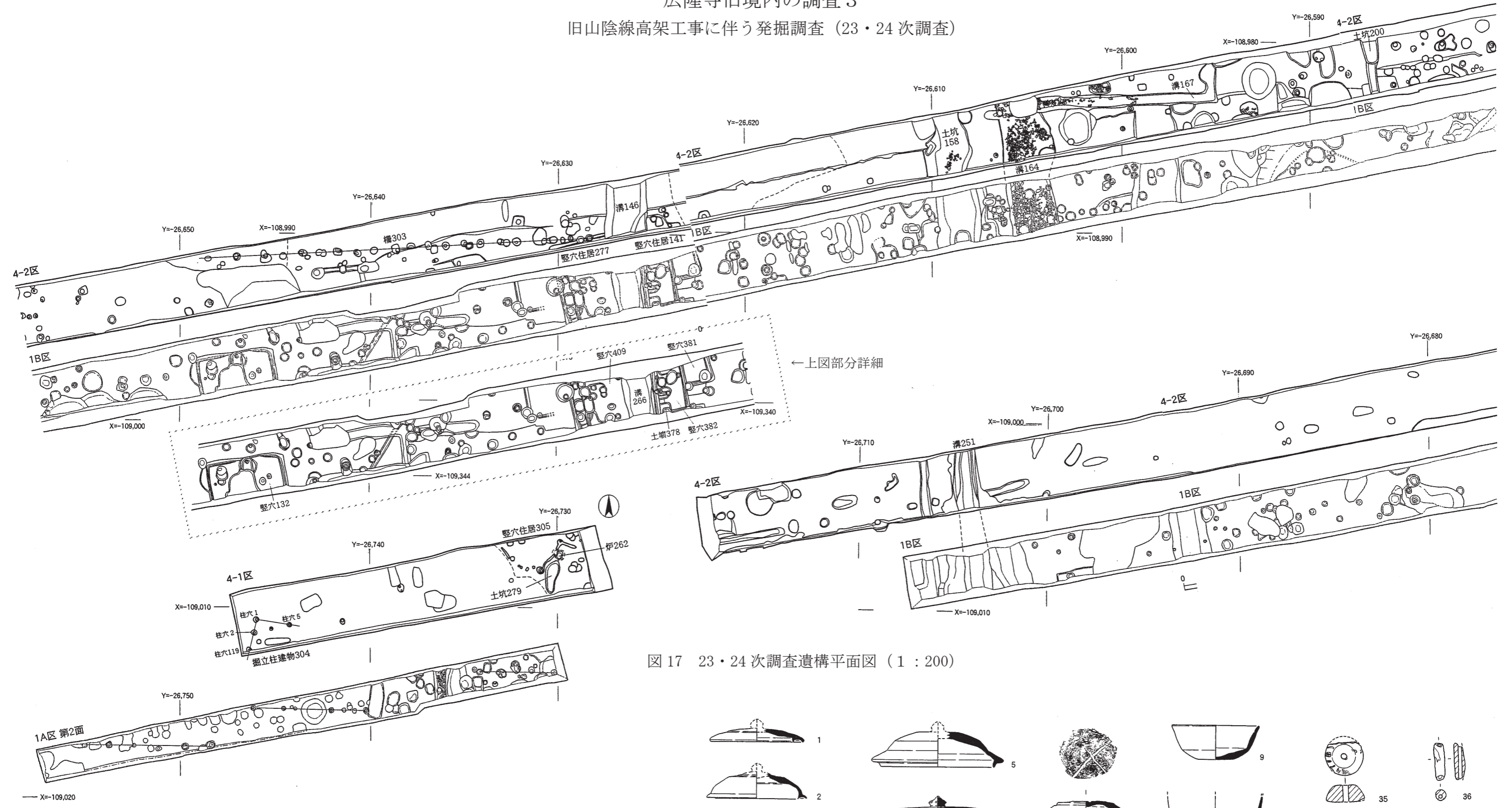


図17 23・24次調査遺構平面図 (1:200)

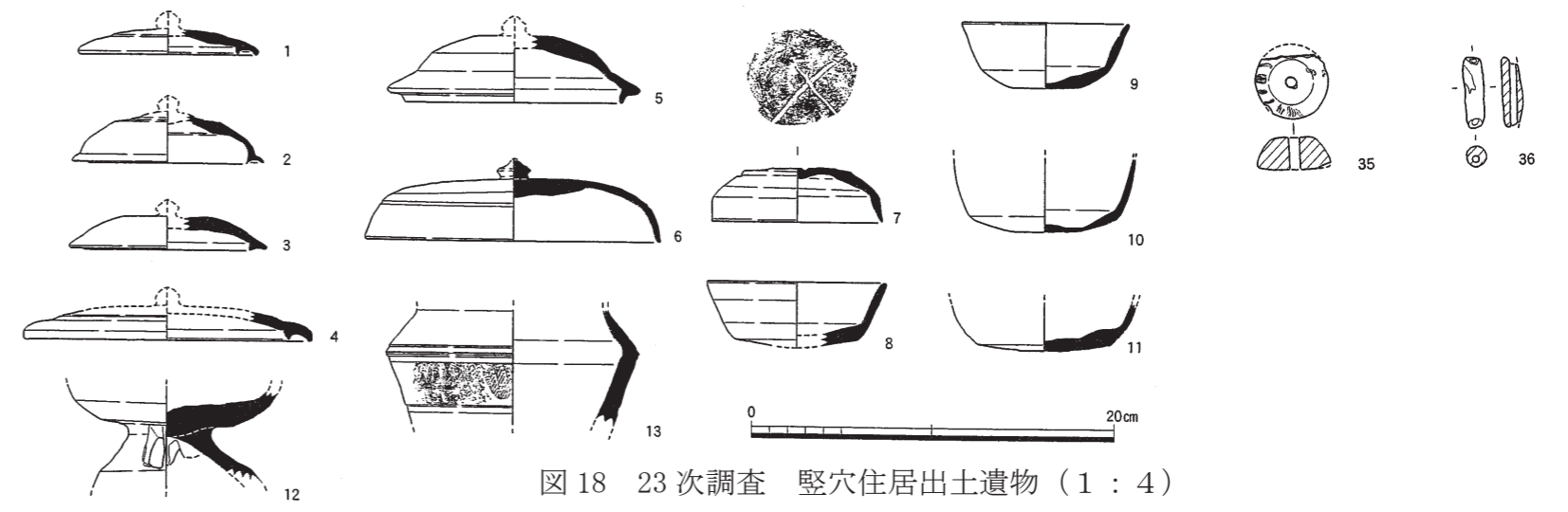


図18 23次調査 竪穴住居出土遺物 (1:4)